

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-730	16-008	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption and risk of atrial fibrillation: Observational and genetic estimates of association. アルコール摂取量と心房細動の発症リスク：自己申告および遺伝子多型に基づいて		
執筆者		
Tolstrup JS, Wium-Andersen MK, Ørsted DD, Nordestgaard BG.		
掲載誌		
Eur J Prev Cardiol. 2016 Sep;23(14):1514-23. doi: 10.1177/2047487316641804.		
キーワード		PMID
疫学、アルコール、心房細動、遺伝子多型、循環器疾患		27071860
要 旨		
目的： アルコール代謝に関わる遺伝子多型および循環器疾患のリスク別に、自己申告によるアルコール摂取量が心房細動の発症リスクと関連するか検討する。		
方法： The Copenhagen City Heart Study (1991-1994, 2001-2003) および the Copenhagen General Population Study (2003-2010) に参加した 88,782 名を対象に前向きコホート研究を実施した。アルコール摂取量はベースライン時の自己申告に基づきカテゴリー化 (<1, 1-6, 7-13, 14-20, 21-27, 28-34, 35+ (女性は 28+) 杯/週) した (1 杯=アルコール 12g)。遺伝子多型はアルコール代謝に関わる ADH1B および ADH1C の型で分類した。心房細動は国際疾病分類に基づき、心房細動による入院をエンドポイントとした。Cox 回帰モデルにより遺伝子多型および循環器疾患リスク別に、アルコール摂取量による心房細動のハザード比 (HR) および 95%信頼区間 (95%CI) を算出した。		
結果： 追跡期間中、3,493 名が心房細動を発症した。男性では、心房細動の HR (95%CI) は、アルコール摂取量<1 杯/週と比べ、28-34, 35+杯/週の群でそれぞれ 1.40 (1.09-1.80), 1.62 (1.27-2.05) と高値であった。女性では、28+杯/週の群に増加傾向がみられた (HR (95%CI)=1.36 (0.98-1.88))。しかしながら、飲酒量が心房細動に与える影響について、遺伝子多型および循環器疾患のリスク別で有意差はみられなかった。		
結論： 男性において、アルコール摂取は心房細動の発症リスクを上昇させた。女性では 28 杯/週以上の飲酒で有意に上昇した。アルコール摂取量と心房細動の関連は、遺伝子多型および循環器疾患のリスク別で差異は認められなかった。		